

議 事 録

会 議 名	第3回 羽曳野市総合基本計画等審議会		場 所	羽曳野市役所 別館2階研修室	
出席者 (敬称略)	事務局	羽曳野市政策企画部 金森部長、平理事、松村課長、 片岡課長補佐、升本課長補佐、 山中主幹、宮崎主幹、芝池主査	日 時	令和7年 12月1日(月) 19:00~20:00	
		ランドブレイン株式会社 平野	開 催 方 法	対面による会議	
審議会 委員	会長	大阪産業大学教授 吉川 耕司			
	副会長	羽曳野市商工会会長 原 誠			
	【1号委員】 市議会議員	市議会議員 黒川 実			
		市議会議員 阪本 菜津代			
		市議会議員 笹井 喜世子			
		市議会議員 通堂 義弘			
		市議会議員 樽井 佳代子			
	【2号委員】 学識経験者	大阪大谷大学教授 岡島 克樹			
		大阪公立大学教授 小川 亮			
		四天王寺大学教授 原田 保秀			
	【3号委員】 市民代表	羽曳野市更生保護女性会副会長 安部 演子			
		羽曳野市人権啓発推進協議会会長 尼丁 正寄			
		四天王寺大学学生 綾野 眞悠			
		大阪大谷大学学生 伊東 賢伸			
		羽曳野市社会福祉協議会会長 浦田 崇			
		羽曳野市教育委員会教育長職務代理者 奥野 貞一			
大阪公立大学学生 溝上 響					
市民ワーキング会議代表 村上 阿貴					
りそな銀行羽曳野支店支店長 井上 大輔					
藤井寺公共職業安定所所長 川崎 弘人					
大阪南農業協同組合営農部課長 塚本 哲也					
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1-1 基本構想素案 ・資料1-2 第7次総合基本計画「まちの将来像」について ・資料2-1 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案 ・資料2-2 前期基本計画(仮)と総合戦略(仮)の対応表 ・参考資料 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案 ・参考資料 基本構想デザイン案 				

議事	
発言者	発言内容
事務局	<p>【次第1】開会</p> <p>羽曳野市総合基本計画等審議会を開会する。花川委員より監査委員就任に伴う辞任の申し出があり、後任として市議会から樽井委員が就任された。出席委員は過半数を満たしているため会議は成立する。傍聴希望者はいなかった。以上を踏まえ、会長挨拶をお願いする。</p>
吉川会長	<p>【次第2】会長あいさつ</p> <p>第3回審議会に参集いただき感謝する。前回（10月）の第2回では、基本構想素案や総合戦略の検証・骨子案等について報告を受け、各委員から意見を頂いた。その後、市民に分かりやすい表現と市の方針との整合を踏まえ、庁内で将来像等を再検討し、本日は基本構想の素案として示されると聞いている。総合戦略についても、第3期骨子案を基に整理した素案が示される予定である。本日は基本構想と総合戦略について議論を深め、内容を固めたい。夜間開催であるが、建設的かつ活発な意見をお願いする。</p>
事務局	<p>【次第3】議事事項</p> <p>（1）第7次総合基本計画基本構想（素案）について （事務局から基本構想素案について、概要を説明）</p>
原田委員	<p>デザインイメージの3プランについて確認したい。29ページの基本構造は、先ほど説明のあった別案の扱いになるのか。</p>
事務局	<p>29ページのプランは策定途中のものであり、変更を反映したものは別に示した案である。</p>
原田委員	<p>了解した。将来像の文言「魅力が息づき未来を築く」に関し、「息づき」とした意図は何か。「息づく」の方が語感として自然にも思える。</p>
事務局	<p>語感としては「息づく」の方が近いが、日本語の文の流れとしては「息づき」の方がよいのではないかという整理である。</p>
伊東委員	<p>変更点に関して質問する。26ページのSWOT分析で、強みに「交通利便性・都市近接性」とあるが、住民アンケートでは満足度が低く、強みと言い切れないのではないかと。なぜ強みに位置付けたのか。</p>
事務局	<p>前回も論点となった。本市が歴史的に近鉄沿線の発展により人口が増え、ベッドタウンとして成長してきたことは事実である。他方、アンケートでは交通への不満が多く、取り方と分析の仕方を見直す必要があると考えている。今回は道路と公共交通を一体で問う設計であったため、不満の所在が判別しづらい。居住地域ごとの不満の差も含め、立体的に分析した上で施策を検討したい。強みと書きつつも、満足度調査が交通の実態を十分に捉え切れていない可能性があるため、今後精査すべき領域である。</p>
吉川会長	<p>基盤としての鉄道アクセスと、まちなか移動のようなフィーダー交通は性格が異なる。道路と公共交通を切り分けて説明できるようにすることが重要であり、強みに書くかど</p>

	うかも含め、説明の整合が取れていればよい。
安部委員	2 ページの施策効果に市民アンケート結果があるが、この 10 年計画の途中でアンケートを実施する想定はあるのか。前回も感じたが、評価の切り方が分かりにくい。世代も含めて幅広く声を拾う必要があると思うが、どのように考えているのか。
事務局	未確定であるが、従来は前期・後期の策定時に 5 年に 1 回であった。しかし進捗把握には十分でないと感じている。設問設計を精緻化し、結果を分析して現状分析へ反映できる形を検討したい。頻度も含め引き続き検討する。また、市のアンケートに加え、国がウェルビーイング指標の観点で住民アンケートを行い、結果が毎年公表されるため、それも活用しながら分野横断で把握していきたい。
岡島委員	2 ページについて 2 点ある。1 点目として、進行管理で国の指標を参照する方針には賛同する。可能であれば、その旨を 2 ページに明記した方がよい。PDCA を回す際にエビデンスに基づくこと、そしてエビデンスとしてそうした指標を参照する旨を記載したい。2 点目として、PDCA では参加型の視点も重要である。さらに、こどもの意見表明等に関する法制度上、自治体はこども施策の立案・実施・評価で意見聴取等の必要な措置を講じることが求められる。総合計画でも、その姿勢を示すことが重要である。
事務局	指摘の点は記載を工夫し、分かりやすい形に修正対応する。
吉川会長	序論に計画の考え方を示す以上、重要事項としてしっかり書き込みたい。アンケートの調査手法は早期に検討してほしい。時系列比較の継続性もあるため、初回設計を丁寧に行う必要がある。国のアンケートも活用し、重複を避けつつ整合的に検討を願う。
阪本委員	アンケート実施において、Web 活用は進めないのか。
事務局	今回の策定時は郵送と電子回答の併用で実施した。今後の継続的な把握は予算とも関係するため未調整だが、電子を活用しつつ取り方を検討する必要がある。
吉川会長	前回も回収率が 29.5%と低いという議論があった。どの手法が適切かは検討が必要であり、吟味をお願いする。
溝上委員	資料 1 の 35 ページの「計画全体のイメージ」が、左から右の流れなのか、どこが最上位なのか分かりにくい。ピンクと青の配置や矢印のような形も含め、意図が伝わりづらい。施策の羅列に見えるため、初期・中期・長期のような経緯が分かる構造にすると見やすいのではないか。
事務局	体系図の表現は各自治体でも悩むところである。図としては目標を頂点に据え、そこへ向けて施策の柱を積み上げるという考え方で、下から上に読む構造である。横串として統一的な考え方、まちづくりの戦略・戦術を横断的に入れているため、横に刺さる表現となっているが、分かりにくさは認める。「施策」も役所用語であり、言い換えも含め検討したい。分かりやすくする工夫について意見があれば伺いたい。
溝上委員	企業の統合報告書で見られる価値創造モデルやロジックモデルのように、インプット・アクティビティ・アウトカムを初期・中期・最終で示す図が参考になる。地域性を出したデザインも可能ではないか。

吉川会長	縦の体系と横串に加え時間軸も入れようとしており、三次元的で表現が難しい側面がある。意見として受け止めたい。
岡島委員	自治体の総合計画は柱の下に多数の個別施策があり、DX 等の横断テーマを横串で入れる構造が一般的である。ただ本図は戦略・戦術等の概念も入っており、認知負荷が高い。ロジックモデルは、むしろ個別施策側で組み込まれることが多く、全体図に包含するのは難しい。
吉川会長	抜本的改造は難しいかもしれないが、可能な範囲で改善いただきたい。
尼丁委員	「住みよいまち」と言うが、誰にとっての住みよいまちなのか。ここに来られる者は自力で移動できるが、弱い立場の人はそうではない。アンケートもそうした人の視点が十分に反映されていないのではないかと。例えば不登校や自殺の増加など現状を踏まえると、より生きやすく暮らしやすいまちを、弱い立場の人を中心に据えて考えるべきである。そうでなければ一部には住みよくても、多数には住みにくくなる懸念がある。
事務局	コンセプトには「市民一人ひとりのウェルビーイングの実現」を掲げている。SDGsの「誰一人取り残さない」は今後の自治体経営で重要であり、ウェルビーイングの考え方の中でも引き継がれる。市として一部の人だけが住みやすいまちを目指す考えはない。弱い立場の方も住みやすいまちが、結果として誰にとっても住みやすいまちになるという認識であり、具体のまちづくりの中で実現に努めたい。SDGsは2030年が節目であり、計画期間の半分程度が該当する。基本計画策定段階で、各施策がどのゴールに結び付くかを明記して進めたい。
吉川会長	アンケートは重要だが、集計中心だと多数派の意見が強く反映されがちである。弱い立場の声が埋もれないよう配慮してほしい。
岡島委員	市民アンケート結果に加え、若者が参加したワークショップ結果も踏まえて記述することが重要である。こども・若者の市政参加は法制度上も重要であり、自治体間で取組の格差が生じている。若者参加を進めた点は評価できるが、こども参加も含め、意見をどう反映したかを記載するとよい。こどもに優しいまち、高齢者や障害者にも優しいまちとなる。施策量の多寡ではなく、参画の仕組みとして位置付けてほしい。
原田委員	デザインイメージの構成だが、結局重要なのは28ページ以降の基本構想であるのに、前段が長く、メインがどこで出てくるのか分かりにくい。29～30ページの戦略・戦術の図も、読んでも理解しづらい。図を使うなら説明が必要であり、説明が不足すると読まれない。重要事項を先に示し、その後に理由を述べるなど、見せ方を工夫してほしい。内容自体はよいことが書かれているだけに、伝わりにくいのがもったいない。
事務局	総合計画は過去の振り返りから社会情勢を踏まえて施策を組み立てる構造になりがちで、分かりにくさは認める。図も含め、必要なラインが伝わるよう精査したい。最終的に現行のままか変更するかは検討中である。
吉川会長	時間制約はあるが、可能な範囲で努力してほしい。デザインに加え説明文の追加も必要である。端的に要点を示し、詳細は資料編で示すなど、見せ方も工夫できる。概要版

	作成の予定はあるのか。
事務局	基本構想が一定固まった段階で、コンパクトにまとめたものの作成は必要と考える。年度内か、計画完成時に市民周知として作るかは未定だが、来年度になる可能性がある。
吉川会長	貴重な意見を踏まえ、改善に努めていただきたい。次の議題に移る。
事務局	(2) 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について (事務局から総合戦略(素案)について、概要を説明)
岡島委員	第3期総合戦略の数値目標の示し方には概ね納得した。細かな進捗は総計と同様の方法で管理する理解である。子ども・子育て分野では、こども大綱の指標等も進捗管理に活用できる。ウェルビーイングの観点では、パートナーシップや市民活動の活発さを示す指標も重要である。縦割りに偏らず、数値だけに依らず、成果とプロセスの両面を丁寧に見る視点が必要である。
事務局	大きな数値目標は素案のとおりである。子ども関連などの分野別指標は、各施策の中で適切な数値を示す形で整理したい。
伊東委員	3ページの第2期総合戦略の横断的視点に「新しい時代の流れを力にする」「多様な人材の活躍を推進する」がある。第2期の総括ではDXの総括は書かれているが、多様な人材活躍の総括がない。同列の横断的視点である以上、総括が必要ではないか。
事務局	指摘のとおりである。DXだけでなく、多様な人材の活躍推進も重要であり、総括の書きぶりは検討したい。
原田委員	基本計画と戦略の関係表を見ると、施策16・17・24に「○」がなく、高齢者や健康づくりの視点が手薄に見えかねない。多様な人材活躍の視点も含め、位置付けを検討してほしい。なぜ「○」がないのかが疑問である。
事務局	関連性の示し方は庁内でも議論がある。施策体系上の整理の都合もあるが、生涯活躍等の視点は重要であり、全体像の示し方は検討する。
吉川会長	総合戦略と総合計画を完全に分離するのか、一体的に位置付けるのかで整理も変わる。議論も踏まえ、改善できる点は改善してほしい。
事務局	(3) その他 次回は令和8年1月30日19時予定。
吉川会長	【次第4】閉会 本日の審議の終了にあたり、原副会長からも一言いただきたい。
原委員	総合基本計画はあれもこれも盛り込みがちで、内容が難しくなる。重要事項を入れることは必要だが、できる限り分かりやすく、優しい表現で運用してほしい。理解できる人材ばかりではないため、市民に伝わる形を目指してほしい。
吉川会長	市民に伝わる計画にする視点は重要である。本日は長時間にわたり協力いただき、多くの意見を頂いたことに感謝する。以上で本日の議事を終了する。